

読む

ようすや こうどうをよみとろう(一)

「子どものすきな神さま①」

名前

こたえ

子どものすきな小さい神さまがありました。いつもは森の中で、うたをうたったりふえをふいたりして、小とりやけものとあそんでいましたが、ときどき人のすんでいる村へ出てきて、すきな子どもたちとあそぶのでした。

けれどこの神さまは、い子どもすがたをみせたことがないので、子どもたちにはちっともわかりませんでした。

ゆきがどっさりふったつぎのあさ、子どもたちはまっ白なのっぱらであそんでいました。するとひとりの子どもが、

「ゆきの上にかおをうつそうよ。」  
といました。

そこで十三人の子どもたちは、こしをかがめてまるいかおをまっ白なゆきにおしあてました。そうすると、子どもたちのまるいかおは、一れつにならんでゆきの上にうつったのでした。「一、二、三、四、……」

とひとりの子どもがかおのあとをかぞえてみました。

どうしたことでしょう。十四ありました。子どもは十三人しかいないのに、かおのあとが十四あるわけがありません。

きっと、いつものみえない神さまが、子どもたちのそばにきているのです。そして神さまも、子どもたちといっしょにかおをゆきの上にうつしたのにちがいありません。

（新美南吉作 にいみなんきち）  
子どものすきな神さま

【1】子どものすきな神さまがいつもしていることをえらんで○をつけましょう。

( ) 村で小とりやけものとあそぶ

(○) 森の中で小とりやけものとあそぶ

( ) 村ですきな子どもたちとあそぶ

( ) 森の中ですきな子どもたちとあそぶ

【2】ゆきがどっさりふったつぎのあさ、子どもたちはどこであそんでいましたか。□の中にかきましましょう。

(まっ白な)のっぱら

【3】子どもたちは、どのようにしてゆきの上にかおをうつしましたか。□のところをよんで□の中にかきましましょう。

こし

をかがめて

まるい

かおを

まっ白な

ゆきにおしあてた

【4】子どもたちは、なぜ、神さまがそばにきていると思ったのですか。あてはまるものに○をつけましょう。

(○) 子どもは十三人しかいないのに、かおのあとが十四あったから

( ) ゆきの上にかおをうつしている神さまのすがたがみえたから

( ) 森のおくから、神さまの声がかきこえたから

【5】子どもたちは、かおをみあわせながら目と目でどんなそうだんをしましたか。

□の中にかきましましょう。

例・神さまをつかまえようよ

・神さまをつかまえるそうだん

読む

ようすやこうどうをよみとろう(2)

「子どものすきな神さま②」

名前

こたえ

※もとの文しよの「ぶをかえています。」  
 「おにごっこしよ。」  
 「しよよ、しよよ。」  
 そうして、ひとりの子がリーダーになり、あとの十二人が、一れつにならびました。  
 「きをつけッ。ばんごうッ。」  
 とリーダーがごうれいをかけました。

「一ッ。」

「二ッ。」

「三ッ。」

「四ッ。」

「五ッ。」

「六ッ。」

「七ッ。」

「八ッ。」

「九ッ。」

「十ッ。」

「十一ッ。」

「十二ッ。」

と十二人の子どもたちがばんごうをいってしまいました。そのとき、だれのすがたもみえないのに、十二ばん目の子どものつぎで、

「十三ッ。」

といった人がいました。玉をころがすようなよこえでした。

そのこえをきくと子どもたちは、

「それ、そこだッ。神さまをつかまえろッ。」

と、十二ばん目の子どものよこをとりました。

神さまはめんくらいました。いたずらな子どものことだから、つかまったらどんなめにあうかしれません。

ひとりの子どものまたの下をくぐって、神さまは森へにげかえりました。けれど、あまりあわてたのでくつをかたほうおとしてきてしまいました。

子どもたちはゆきの上から、まだあたたかい小さな赤いくつをひろいました。

「神さまはこんな小さなくつをはいてたんだね。」

と、みんなでわらいました。

そのことがあってから、神さまはもうめったに森から出てこなくなりました。それでもやはり子どもがすきなものだから、子どもたちが森へあそびにいくと、森のおくから、  
 「おおい、おおい。」  
 とよびかけたりします。

(新美南吉作 にいみなきち 子どものすきな神さま)

【1】一れつにならんでいる子どもはなん人居ますか。あてはまるかずをかん字でかきましよう

十二人

【2】「十三ッ。」といったのはだれですか。□の中にかきましよう。

神さま

【3】神さまはどなくつをはいていましたか。□の中にかきましよう。

小さな赤い

くつ

【4】「子どものすきな神さま①、②」をよんで心にのこったところをえらび、かんそうをかきましよう。

(例) 神さまをつかまえようと

しているところが心にのこりま

した。わたしも神さまとあそんで

みたいです。

読む

ようすやこうどうを よみとろう (3)

「小人のくつ屋さん①」

名前

こたえ

あるところに、くつ屋さんがおりました。自分がわるいことをしたわけでもないのにとにかくお金がなくて、一足のくつを作るだけの皮かわしかもうのこっていません。あるよる、あくるあさにしたてようと皮をたちきっておきました。※<sub>1</sub>ころねのよい人でしたから、ひそやかにベッドでよこになりながら、おいのりをとなえつつ、ねむりにおちます。あさになって、おいのりしたあとで、さてしごとにとりかろうとする と、気づけば一そくのくつはどうにしががりでき上がっていて、つくえにちよこなんとたてられているのです。びっくりたまげた **その人**はなんともしえずに、まぢかに見てみようよと、くつを手にとりました。すばらしいできのくつで、ぬい目もすんぶんまぢがいなく、まるで、※<sub>2</sub>たくみの手になるものよう。まもなく、おきやくさんがやってきました。もう大まんぞくでしたので、よけいにお金をしはらってくれました。つまりこんどは二そくぶんのくつが作れるほどの皮がかえたわけです。そしてよるになって、あくるあさ、気もちもあらたに したてようと皮をたちきっておきました。ところがその手はかからずじま。い。というのも、おきたときにはもうでき上がっていたからで、おきやくさんにとってももうしぶんなし、お金がたんまりふどころにはいって、つぎには四そくぶんのくつが作れるだけの皮が ※<sub>3</sub>あがなえました。さらにあくるあさはやくには、しがあがった四そくのくつ、こんなちよしがどんどん つづいていきます。よるにたちきっておけば、あさにはかかってでき上がっています。たちまちくらしもたつようになり、とうとうお金もちになりました。

(グリム兄弟作 大くぼゆうやく 小人のくつ屋さん)

※<sub>1</sub> ころね … 本どうのころ

※<sub>2</sub> たくみ … じょうずな人

※<sub>3</sub> あがなう … 手に入れる

【1】**その人**とはだれですか。あてはまるものに○をつけましょう。

(○) くつ屋さん

( ) おきやくさん

( ) 小人

【2】 のように **その人**が「びっくりたまげた」のはなぜですか。あてはまるものに○をつけましょう。

( ) 一そくのくつをつくるだけの皮しかなかったから

(○) 気づけば 一そくのくつができて上がったから

( ) おきやくさんがよけいにお金をしはらったから

【3】 のように おきやくさんが大まんぞくしてよけいにお金をしはらってくれたのはなぜですか。  の中にあてはまることばをかきましょう。

すばらしい

できのくつで、

ぬい目もすんぶん

まぢがいなく

まるで、たくみの手になるものようだったから

【4】くつ屋さんが、お金もちになったのはなぜですか。あてはまるものに○をつけましょう。

( ) 自分で作ったくつがたくさんうれたから

(○) いつのまにかでき上がったくつがたくさんうれたから

( ) おきやくさんにもらったくつがたくさんうれたから

読む

ようすや こうどうを よみとろう (4)

「小人のくつ屋さん②」

名前

こたえ

クリスマスもちかいあるよる、皮もたちおわったくつ屋さんは、ベッドに入るまえにおくさんにいいました。

「こんやためしにねずのばんをして、どなたが手だすけしてくれているのか、たしかめてみるのはいかがでしょうか。」

おくさんもうなずいて、あかりもつけておくことにしました。へやのすみにひそんで、じぶんたちのまえにはふくをかけておいて、そこからのぞきみるのです。するとよがふけたころ、目にとびこんできたのは、ふたりの小人さん、ふくはなにもきておらず、くつ屋さんのしごとづくえのまえにじんごると、したくずみのしごとにとりかかり、まずはぬって、ちくちくとんとん、小さなゆびで ※たくみにすばやく、くつ屋さんも目をはなせず、どぎもをぬかれてしまいました。手をとめないまま、やがてでき上がると、つくえの上にちよこなんとたてて、ぴよんととびおいてはしりさっていきます。

あくるあさ、おくさんがくつ屋さんにいうには、「あの小人さんたちが、わたしたちをお金もちにしたのですから、おれいをしなくちゃなりませんよ。はしりまわっているのに、なにもみにつけるものがありませんから、さむそうでかありません。よろしいですか、ちいさな下ぎに、上ぎに、それからチョッキとズボンをぬきますよ。それに一そくずつ、くつ下もぬいますから、あなたはそれぞれに、くつを一そく、作ってあげなさいな。」

だんなさんも、ぜひにということで、そのよるしごをやり終えると、たちきった皮のかわりに、こころづくしのおくりものを、つくえにそろえておいて、小人たちがどうふるまうのか、見とどけることにしました。

(グリム兄弟作 大くぼゆうやく 小人のくつ屋さん)

※一 たくみ … じょうず

※二 どぎもをぬく… びつくりさせる

【一】クリスマスもちかいあるよるくつ屋さんとおくさんは、そうだんしてなにをしましたか。また、それはなぜですか。□の中にあてはまることばをかきましょう。

(ために) **ねずのばん**

をして

**どなたが手だすけしてくれているのか**

たしかめてみるため

【二】くつ屋さんを手だすけしていたのは、だれですか。□の中にかきましょう。

**ふたりの小人さん**

【三】 のところをよんで小人たちがしたことのじゆんに1、2、3のすう字をかきましょう。

(2) 小さなゆびでたくみにすばやくぬう。

(1) しごとづくえのまえにじんごる。

(3) (できあがったものをつくえの上)tてたてる。

【四】 の「こころづくしのおくりもの」とはどのようなものですか。□の中に六つかきましょう。

**下ぎ**

**上ぎ**

**チョッキ**

**ズボン**

**くつ下**

**くつ**

読む

ようすや こうどうを よみとろう (5)  
「小人のくつ屋さん③」

名前

こたえ

よもふけて、とびこんできた小人さんたちが、さあしごととおもったところ、見つかるのは皮かわのきれではなく、ぴったり体にあった小ぎれいな※おめしもの。小人もびっくりたちすくみましたが、たちまちうれしくなってためしてみます。そわそわどたばた、すてきなおめしものを手にとつてきこむと、うたをうたつてくれました。

さ ぼくらも おしゃれさん！  
もう くつ屋は にあわない！

そして小人さんたちは、足ぶみしながらおどりまわり、いすにつくえにとびはねて、とうとう戸口とぐちからおどりでていきました。そのときくらい、小人さんたちは出てこなくなりましたが、生きているあいだ、くつ屋さんはなんでもうまくいきましたし、やることもみんな大せいこうでした。  
(グリム兄弟作 大くぼゆうやく 小人のくつ屋さん)

※おめしもの…きているもの、ふく

【1】 小人さんたちはおめしものをきこんでいるときどんな気持ちでしたか。あてはまるものに○をつけましょう。

- ( ) びっくり
- (○) うれしい
- ( ) かなしい
- ( ) いらいら

【2】 \_\_\_\_\_ をよんで小人さんたちのようすにあてはまることばを \_\_\_\_\_ の中に かきましよう。

足ぶみ

しながら

おどりまわり

、いすに

つくえに

とびはねて

とうとう、戸口から

おどりでて

いきました

【3】「小人のくつ屋さん①、②、③」をよんで心にのこったところをえらび、かんそうをかきましよう。

(例) 小人がうれしくなってお

どっているところが心にのこ

りました。くつ屋さんたちのお

くりものをよろこんでもらえた

ので、よかったです。